九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

褒めとポライトネス : 褒めは肯定的評価か否定的評価か

松村, 瑞子
九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門・言語教育学講座

https://doi.org/10.15017/7153229

出版情報：言語科学. 51, pp.51-58, 2016-03-31. 九州大学大学院言語文化研究院言語研究会
バージョン：
権利関係：

褒めとポライトネス

―褒めは肯定的評価か否定的評価か―

松　村　瑞　子

本論では、褒めに関わるポライトネスについて論じる。褒めとは「相手を肯定的に評価する言語行動」であるが、褒める対象、褒め方、褒めの機能、褒めへの反応は文化によって異なることも多く、しばしば誤解を生じる。この論文では、先ず日本人の褒めの例を挙げながら、褒めのポライトネスに関連する文化差について考えていく。次に、誤解される可能性の大きい日本人の褒めについて考察していく。

1　はじめに

褒めとは「相手を肯定的に評価する言語行動」であるが、褒める対象、褒め方、褒めの機能、褒めへの反応は文化により異なることが多く、取分け異文化コミュニケーションにおいては誤解に繋がることも多い行為の一つである。アブド・エラジム(2011: 4)は、日本人の褒めがアラブ社会ではバーバル・ハラスメントとされる可能性がある例として以下の経験を挙げている。

> エジプトにある大手企業に日本人とエジプト人の通訳として勤務していた時、ある会議で日本人側のリーダーがエジプト側のリーダーたちの前で挨拶をした。日本側リーダーは「〇〇会社のエンジニアの努力と〇〇会社の美人で上手な通訳者のおかげでこのプロジェクトが成功しました。」という挨拶をし、通訳者の私を困らせたことがある。
>
> エジプトでは身内でない女性を褒めるのはバーバル・ハラスメントに近い発言と思われる。女性が身内でない男性に先天的なことを他人の前で褒められることは、周りを気まずい雰囲気にしてしまう行為である。

この論文では、褒めの定義および先行研究を概観した後、先ずアブド・エラジム(同上)を中心に、日本人の褒めの例を挙げながら、褒めに関連する文化差とポライトネスとの関係について論じていく。次に、日本人は褒めているつもりだが、誤解される可能性の大きい褒めについて考察していく。

2　褒めは肯定的評価か否定的評価か？

Holmes (1986: 485) は「褒め」を以下のように定義している。

> A compliment is a speech act which explicitly or implicitly attributes credit to someone other than the speaker, usually the person addressed, for some 'good' (possession, characteristic, skill, etc.) which is positively valued by the speaker and the hearer.

上記の定義にも述べられているように、褒めは肯定的評価を表す言語行動であるが、それが肯定的解釈をうけるか否定的解釈をうけるかは、話し手と聞き手の関係、コンテクスト、文化によって異なる。Holmes (1995: 121) は、状況によって褒めは以下のような異なる機能を表すとしている。

1. to express solidarity;
2. to express positive evaluation, admiration, appreciation or praise;
3. to express envy or desire for hearer's possessions;
4. as verbal harassment.

どのようなコンテクストで、1・2の肯定的解釈をうけ、3・4の否定的解釈をうけるかには文化差が大きい。教育という観点からすれば、その相違に焦点をあてることが肝要であろう。

Brown and Levinson (1987: 243) は、ある社会にはエトスと呼ばれる「ある社会の構成員に特徴的な相互行為上の情緒的な特質」があり、「暖かく、のんびりした、人なつこい」エトスの社会もあれば、「堅苦しく、形式的で、慇懃な」エトスの社会もあると述べている。そのため、文化によってFTA(面子を脅かす行為) とみなされる行為は異なっており、日本のように恩義に敏感な文化とイギリスやアメリカ合衆国のようにさほど敏感ではない文化では、様々の言語行動の解釈が異なるとしている (同上：247)。褒めもその一つと考えられ、肯定的か否定的かという解釈の違いで誤解を生むことも多々ある。それ故、誤解に繋がる可能性のある褒めには予め注意しておくこと必要があろう。

川口・蒲谷・坂本 (1996) は、日本語の褒めを「表現意図」という観点から「実質ほめ」(心から高い評価を表現したいときのほめ) と「形式ほめ」(褒めること以外の別の表現意図のために行う褒め) に分けた。しかし、山路 (2003: 5) が論じるように、「心からであるということと、別の表現意図があるということは別に考えるべき問題であろう。心から褒めつつ会話のきっかけを作ろうとすることは十分ありうる。」日本語教育という観点からすれば、「実質褒め」「形式褒め」に分けるよりも、日本人の褒めが誤解される可能性の高い褒め、学習者に理解しにくい褒めに焦点を当てることが得策であろう。

3　日本人の褒めは肯定的評価をうけるか、否定的評価をうけるか？ 日本人の褒めとポライトネス

褒めについての評価は文化によって大きく異なることがある。以下は日本人がエジプト人を褒めた例である[1]。何れも日本人が日常的に褒める内容であるが、この中にはエジプト人が嬉しいと感じた褒めと、不快に感じた褒めがある。それはどれであろうか、また何故そのような区別がおこるのであろうか。

[1] この節の褒めおよびその解釈は全てアブド・エラジム(同上) より引用したものである。

(1) 30 代のエジプト人女性が、近所の 40 代の日本人女性を招いて一緒に食事をした。その日本人女性は「とても美味しい。お料理上手ね。作り方教えて。」と褒めた。
(2) 30 代のエジプト人女性が自転車に自分の子供 2 人を乗せて保育園まで行っていた。近所の 30 代の日本人女性が、自転車の前の籠に乗っている子供を見て、「あっ、かわいい！大きくなったね。」と褒めた。
(3) 40 代のエジプト人男性が研究でいい成果を出したとき、先生から「すごいね。よく頑張ったね。」と褒められた。
(4) 20 代のエジプト人女性が綺麗な服で職場に行った時、先輩の日本人女性に「おしゃれ！」と褒められた。
(5) 30 代のエジプト人男性が 30 代の日本人男性と一緒に歩きながらある看板を探していた。エジプト人が先に見つけて「あそこでしょう、…と書いている。」と言ったら、「おお、目がいいねえ。」と褒められた。
(6) 20 代のエジプト人女性が 30 代の大学の先輩の日本人男性に、スカーフと服を合わせるセンスを褒められた。
(7) 20 代のエジプト人女性が 20 代の日本人女性に、「わ、目がきれいで大きい。睫毛が長い。いいな。」と褒められた。
(8) 20 代のエジプト人女性が、日本のホームステイ先で、その家の日本人の娘からエジプトから持ってきたパジャマをとても褒められた。

アブド・エラジム(2011)によると、エジプト人が嬉しいと思った褒めは(1)(3)(4)(6)である。(1)は料理、(3)は研究、(4)はおしゃれ、(6)はスカーフと服の組み合わせのセンスと、何れも努力の結果を褒められたものである。これらの褒めはエジプトなどアラブ系の人たちに受け入れられやすい褒めである。(1)は料理であり、一生懸命作った料理を褒められるのは嬉しかったと答えている。(3)は上の立場にある先生から努力を褒められた場合であり、素直に嬉しいとされている。しかし、立場が下の人から同様の褒めをうけると邪視や嫉妬の心配があってあまりいい気持ちではないという。(4)も女性が女性に軽くおしゃれを褒められるのは好まれる。(6)も(4)と同様スカーフと服の色の組み合わせのセンスを軽く褒める例であり、好まれる。

一方、エジプト人が嬉しくなかった褒めは(2)(5)(7)(8)である。これらの例のうち、(2)は子供のかわいらしさ、(5)は視力のよさ、(7)は目の大きさやまつ毛の長さのように、先天的外見や生得的能力を褒められた場合であり、このような褒めはアラブ系の人たちには好まれない。また、(7)のように持ち物を強く褒められた場合「それ程褒めるのは欲しいという意味だろうから、あげなければ失礼であるし、また他人が欲しがっているものを着るわけにはいかない」と考え、その持ち物を褒めた人にあげたという。このようにお金、財産、持ち物を褒められるのもアラブ系の人たちには嫌がられることが多い。

アブド・エラジム((2011)の説明によると、肯定的に解釈される褒めは邪視や嫉妬につながらないものであるのに対し、否定的に解釈される褒めは先天的外見や能力であり嫉妬につながるもの

である。ここで注目すべきは、日本人にとって肯定的評価の「褒め」は必ずしも肯定的解釈をうけるわけではなく、否定的に解釈されることもあるという点である。即ち、日本人がポライトネスのつもりで行った褒めが、ハラスメントになることもあるのである。多文化共生を目指して日本語教育をしていくためには、教師側はこれらの解釈の相違を十分に理解しておくと同時に、日本人にとっての褒めの評価を誤解のないように伝える必要があるであろう。

4　理解されにくい日本人の褒め

本節では、ドラマや小説の例を用いて、誤解されやすい日本人の褒めについて教授する方法を考えていく。

以下の例 (9)(10)[2] は映画『しゃべれどもしゃべれども』の中の会話である。設問を解きながら、三つ葉や師匠がどのような気持ちでこの発話をしているかを考えることで、日本人の褒めについて考えていく。

会話例(9)

対話者：三つ葉：一人前の落語家の資格をとれていない見習い落語家

　　十河：三つ葉の開く落語教室の生徒、三つ葉と同世代の女性

場面：三つ葉と十河が二人でほうずき市に出かける。三つ葉が初めて十河の美しい浴衣姿を見た場面

1 三つ葉：…へえ。

2 十河：なによ。

3 三つ葉：着れば下手な縫い目も分かんないな。

　　・・・

　　うまいこと着られているよ。

設問：

a) 三つ葉はどういう気持ちで「着れば下手な縫い目も分かんないな。」という発話をしたのでしょうか。

十河の浴衣姿がとても綺麗だったのでそれを褒めるつもりで下線部の発話をした。実際言いたかった内容は「とてもうまく着られている」「浴衣姿がとても綺麗だ」ということである。[3]

b) では何故三つ葉はこのような言い方をしたのでしょうか。

三つ葉がこのような言い方をした理由としては以下の2点が考えられる。

(1)気恥ずかしいためである。三つ葉も十河も相手のことが気になり始めているが未だ完全には打ち解けていない状況である。そのような時に自分の気持ちを素直に伝えるのは取り分け日本人男性にとっては難しい。

(2)このような場合あまりに率直に褒めると逆に言葉が軽くなってしまい真意が通じなくなる

---

[2] 会話例(9)(10)は、映画『しゃべれどもしゃべれども』を教材化した徐燕(2009)より引用したものである。

[3] 紙面の都合上、解答例を下線で示す。

可能性がある。からかわれていると誤解される場合もある。

c) もしあなたが三つ葉だったら、このような場面でどう言いますか。

略(答えはいろいろありうる。文化差がはっきりと表れる場面である。日本文化とそれぞれの文化との差を調査すると面白い結果がでる可能性がある。

会話例(10)

対話者：三つ葉：一人前の落語家の資格をとれていない見習い落語家

師匠：三つ葉の落語の師匠

場面：三つ葉が落語『火焔太鼓』をうまく話し終わった後の場面。師匠は三つ葉の落語をじっと聞いていた。

1 師匠：なんだ、お前、酒が入ってた方が出来がいいんじゃねえのか。

2 三つ葉：はい。

3 師匠：お前しかできない『火焔太鼓』あったろうが。賭けなんかするんじゃなかった。

1 万損したよ。下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。当たり外れは風任せかあ？

設問：

a) 師匠はどういう気持ちで「なんだ、お前、酒が入ってた方が出来がいいんじゃねえのか。」という発話をしたのでしょうか。

師匠はこの発話をすることで三つ葉の『火焔太鼓』を褒めている。本当は、師匠は三つ葉の落語が上達したことを嬉しいと思い「腕を挙げた」と言いたいのだが、三つ葉には「今回の成功はたまたま酒を飲んでいたため」のように言うことで、これからも益々稽古を積んで上達してもらいたいと思っている。

b) 何故師匠は「お前しかできない『火焔太鼓』あったろうが。」と言った後に「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。当たり外れは風任せかあ？」と付け加えたのでしょうか。

「お前しかできない『火焔太鼓』あったろうが。」と言うことで、三つ葉の落語を直接に褒めてしまったため、「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる。当たり外れは風任せかあ？」と加えることで、この成功は「偶然」だと言って、これでいい気にならず稽古を続けてもらいたいと願う師匠の「親心」を伝えるためである。

c) あなたの国で褒めにくいと思われる場合がありますか。それはどんな時ですか。具体的に書いてください。

略(答えはいろいろありうる。a)b)と同様に文化差が出る部分だと思えるので、調査すると面白い結果がでる可能性がある。)

会話例(9)(10)のような褒めは、学習者には理解しにくいものである。日本人は何故このような褒めを使うのであろうか。以下率直に褒めた故に誤解された例と、一見褒めたようには見えないが褒めに成功している例を挙げることで、日本人の褒めの意識について考えていく[4]。

[4] (11)(12)は山路(2003)(2009)より引用した例である。何れも文学作品よりの引用例である。

(11) (「ぼく」と「黒川礼子」は同級生である)

ぼくは、心の中でそうつぶやきながら、小さなグラスを手にする礼子の横顔を見ていた。「黒川さんて、ほんと、綺麗だね。頭も抜群だし、怖いものなしだね」

礼子はちらりとぼくを見ていった。

「だから、なんだっての？」

「誉めただけだよ。人の誉めを素直に受け取ってくれよ」

(山田詠美「僕は勉強ができない」)

(12) (女性刑事の「彼女」が被害者の「おれ」の家を訪ねてきた)

グレーのスーツの下から伸びるふくらはぎが、微妙にゆれつつ、狭い玄関を上がってくる。綺麗な脚をしていると、変な意味でなく見とれた。

彼女がおれの視線に気付いた。目をそらしたりするのが嫌で、そのまま脚を見ていた。

「何見てんの」

「折れねえのかよ、脚」

「え…」

「そんなに細くて、刑事ってのは走ったり飛んだりするんだろ、よく折れねえな」

「嬉しい、脚をほめられるなんて滅多にないの」

「べつにほめたわけじゃねえよ」

(天童荒太「孤独の歌声」)

設問：

a) (11)と(12)の下線部のうち、率直に褒めているのはどちらですか、また率直ではないが褒めになっているのはどちらですか。

率直な褒め：(11)　　率直でない褒め：(12)

b) (11)と(12)のどちらが、相手に褒めを受け入れてもらっていますか。

(12)

c) (11)と(12)の褒めが成功または失敗した理由を説明してください。

(11) 「ぼく」は正直に黒川のことを「綺麗、頭も抜群、怖いものなし」と思っているわけであるが、これほどストレートに褒め言葉を並べ立てると何か裏があると誤解されてしまうことが多い。そのため、何か裏があると思った黒川から「だから、なんだっての」と言われてしまい、褒めに失敗してしまう。

(12)この例の場合も「おれ」は女性刑事が「とても綺麗な細い脚をしている」と思っている。しかし、それをそのままストレートに述べると、セクシュアル・ハラスメントと誤解されてしまうだろう。ここでは一見貶しているように思える「折れねえのかよ、脚」という表現を使うことで、逆に褒めに成功しているのである。それ故、女性刑事も「嬉しい、脚を褒められるなんて滅多にないの」と素直に喜ぶことができている。

d) 率直に褒めているのに褒めに失敗した例、逆に率直ではないが褒めに成功した例があれば書

いてください。自分自身が相手を褒めた場合でも、相手に褒められた場合でも、また小説、映画、マンガ等で見聞きした例でもいいです。
略(解答はいろいろありうる。この解答も発展的に利用することができる。)

何れも若い男性から女性への褒めの例であるが、会話例(11)は失敗した例、会話例(12)は成功した例である。もちろん必ずしもこのような結果になるとは限らないが、会話例(9)で述べたように、取り分け若い日本人男性の場合、気恥ずかしさから、また誤解につながることを恐れて、外見上は褒めとは思えない表現で褒めを行うこともあることはこのような例を用いて知らせておく必要があると思う。

5　おわりに

本論文では、日本人と学習者の解釈が異なる可能性のある褒めを中心に具体例を挙げながら論じていった。Holmes(1995: 121) は、褒めは1結束、2肯定的評価、感嘆、称賛または賛美、3妬みおよび聞き手の所有物が欲しいこと、4言葉でのハラスメント、という異なる機能を表すとしている。一般に肯定的評価と考えられている褒めが、実際には異文化間で用いられると3や4のように否定的に評価されることも多い。即ち、ポライトネスのつもりで行った褒めが、逆に無礼(impolite)に感じられることもある。この節では、日本人の行う褒めの中で誤解に繋がる可能性のあるものを中心に論じていった。

先ず、日本人がよく行う褒めを挙げながらそれが別の文化(エジプト人)の人々にどのように解釈される可能性があるのかを示した。取り分け邪視・妬みを引き起こすかどうかを中心に論じていった。このことは、多くの日本人にとっては認識されていない褒めの否定的評価であるが、多文化共生の観点から日本語教育を行おうとすれば、避けては通ることができない項目だろう。

次に、一見褒めとは思えないために、学習者には誤解を受けやすい日本人の褒めについて、ドラマおよび小説の例を挙げて、設問を加え、それに答えるという形式で論じていった。そこで挙げた例は、褒めというラベルを貼ることはできないため、日本語教育においては取り上げられることの少ない褒めである。しかし、より深い交流を目指して異文化理解教育を行うためには、これらの褒め、またそれによって達成されるポライトネスについて指導することも必要であろう。

参考文献

Brown, Penelope and Levinson, Stephen C. 1978. *Politeness: Some universals in language usage.* Cambridge: Cambridge University Press.

Holmes, Janet. 1986. Compliments and compliments responses in New Zealand English. *Anthropological Linguistics* 28, 4, 485-508.

_____. 1996. *Women, Men and Politeness.* London and New York: Longman.

アブド・エラジム、ハーラ・マハムド (2011) 「異文化間コミュニケーションにおける『ほめ』をめぐって—日本語とアラビア語の褒め方・解釈の違いに見る文化の影響」九州大学大学院

比較社会文化学府修士論文
川口義一・蒲谷宏・坂本恵（1996）「待遇表現としてのほめ」『日本語学』第15巻第5号
徐燕（2009）「『しゃべれどもしゃべれども』からの会話例」『平成21年度日本語資料集』松村瑞子・王萌(編) 九州大学大学院比較社会文化学府日本社会文化専攻日本語教育講座
松村瑞子（2003）「日本人の敬意表現—韓国人との相違を中心に—」『言葉のからくり—河上誓作教授退官記念論文集—』　東京：英宝社，787－800
_____(2009)「日本語の会話におけるポライトネス—中国語・韓国語のポライトネスとの対照研究に向けて」『日語研究論文集—日語研究的新視野—』　台北：到良出版社，　13-37
_____(2010)「聞き手志向の日本語ポライトネス」『東アジア言語文化論究』第11集，51-65
_____(2014)『日本語のポライトネス—異文化理解教育の方法開発に向けて—』九州大学大学院芸術工学府博士論文
山路奈保子（2003）「日本語の談話における『ほめ』の機能—小説中の談話における『ほめ』の観察から」九州大学大学院比較社会文化学府修士論文
_____（2007）文学作品を利用した異文化理解教育『褒め』とその周辺の言語行動を中心に」九州大学大学院比較社会文化学府博士論文